

### Ⅲ 1994年度の調査研究

#### 1. チームAの調査研究

比べてみよう日本・アメリカの国技

～「相撲」と「野球」でお互いを理解しよう～

#### 2. チームBの調査研究

家電製品からみた日米の衣食住

#### 3. チームCの調査研究

日本とアメリカの中学生の放課後の過ごし方の比較

#### 4. チームDの調査研究

年中行事にみる多民族社会「アメリカ合衆国」

#### 5. チームEの調査研究

アメリカ合衆国と日本の高校生の夏休みの過ごし方

#### 6. チームFの調査研究

日米の食文化の比較

## 比べてみよう / 日本・アメリカの国技 ～「相撲」と「野球」でお互いを理解しよう～

広島県東広島市立東西条小学校	生田 一人
広島県東広島市立高美が丘小学校	津森 毅
広島県広島市立瀬野川中学校	小田原順蔵

### 1. はじめに

本調査は、カリキュラム開発研究の具体的事例として国技に焦点を絞り、国技に関するアメリカの人々のものの見方や考え方についての資料を収集するものである。

テーマは、「比べてみよう日本・アメリカの国技—相撲と野球でお互いを理解しよう」である。日米を代表する国民的スポーツは、相撲と野球であろう。どちらも、その国の歴史や文化と深いつながりを持っている。野球に関して言えば、明治時代に日本に伝わってから100年近いうちに日本に広がり、プロ野球の歴史も50年をこえるほどになっている。日本では、ほとんどの人が野球について知っている。だが、日米の野球を比較するならば、ルールは一緒でも施設や組織、観客の思いなどに相違がみられると考える。

相撲に関して言えば、相撲はアメリカで広まっているとはいえない。しかし、最近では、小錦や曙、武蔵丸といったアメリカ人力士の活躍で関心を持たれてきている。

日米の国技に対する考え方や取り組み方の違いを調べることは、アメリカ合衆国の社会と文化の理解のためのカリキュラム開発研究のテーマとしてふさわしいと考えられる。

調査の方法としては、グリーンビル（ノースカロライナ州）とミネアポリス（ミネソタ州）において、野球（大リーグ）についての子ども意識調査、相撲スクールの実施とその感想、スポーツ施設の視察、店頭や街頭で国技に関するインタビューをすることにした。さらに、その調査活動をビデオ、スライドでできるだけ詳しく記録することにした。

### 2. 現地調査の概要

#### (1) グリーンビル（ノースカロライナ州）での現地調査から

##### ① スポーツ店やスーパーマーケットでのインタビュー

- ・国民的競技（National sports）の名称で言われているスポーツは、各種あると思われる。国技としては、野球、フットボール、バスケットボールに集約できた。国技と云う明確な概念がないように思われる。ただ、最も盛んであるとか、みんなが参加できるからという意識が得られた。中でも、野球という回答がもっとも多く、特に、30才以上の男性が国技は、野球と答えた。

##### ② グレインガー球場の視察とインタビュー

- ・球場の施設としては、日本の地方球場とほぼ同じである。ただ、2Aの試合でも、地元民の応援などの観衆の情熱、観衆の楽しみ方など日本とは違う野球に対する思い入れを感じた。

##### ③ 相撲スクールの実施と学校視察

- ・中学生25人を対象にした相撲スクールは、好評であった。生徒の質問には、けがのこと、塩をまくこと、仕切りの意味などが多かった。ビデオ、パネルなどを使ったデモンストレーションは、相撲への興味・関心を高め、実際に相撲をとらせたことで、相撲の持つおもしろさを好意的に受けとめてくれた。
- ・中学校の視察において、生徒達が十分にスポーツができるカリキュラム面と施設面の充実がうかがわれた。

##### ④ 街頭でのインタビュー

- ・グリーンビル（ノースカロライナ州）の人々は、相撲についてほとんど知らないと思っていた。しかし、インタビューに回答してくれた人の3分の2以上が相撲を知っていた。知らないと答え

た人も、曙や相撲のパネルにより相撲が国技であると理解してくれた。

⑤ホームスティ先でのインタビュー

・ホームスティ先でのインタビューの結果、9才の男子、12才の女子も野球をするという例からもわかるように、家族全員のレクリエーションとして野球を楽しんでいる様子が伺われた。

(2) ミネアポリス（ミネソタ州）での現地調査から

① スポーツ店やスーパーマーケットでのインタビュー

・グリーンビルと同様、国技という明確な概念がないように思われる。しかし、インタビューでの結果や店員同士やお客で国技に関して討論に入り、結論がつかなかったことから考えると、やはり、国技は、野球、バスケット、フットボールの3つの球技に集約できる。ミネアポリスの場合、ツインズの本拠地ということもあり、野球という回答が最も多かった。

② メトロドーム球場、ツインズ事務所での実地調査とスポーツ施設の視察

・球場見学ツアーの参加により、球場の諸施設を詳しく観察することができた。球場見学ツアーがあることはもちろん、野球観戦の様子、諸施設の使い方など日本とは違う野球に対する思いを感じた。

・インタビューの結果、国技としては、およそ野球、バスケット、フットボールに集約できた。ただ、若い年齢層では、野球よりもバスケット、フットボールと各自の好みによって多くなっている。さらに、ワールドカップの影響により、サッカーと答えた人もいた。

・ミネアポリスの回りには、グリーンビルよりも球場が多く、野球、バスケットボール、フットボールの各施設が多い。

③ 相撲スクールの実施

・小学生から中学生約25人を対象にした相撲スクールは、グリーンビルと同様大変好評であった。子ども達からも、数多くの質問「なぜ裸になるのか、手刀をきるのは、塩をまくのは、仕切りの意味など」が出た。

特に、ビデオでの投げ技に興味を示し、芝生の上での相撲において、押すだけでなく、投げ技を含めた決まり手がみられた。子ども達だけで、相撲に取り組んだことからや、行司の役をしたいという女子も現れたことから、相撲のおもしろさを積極的に受けとめてくれたと考える。

### 3. まとめ

現地調査を進める中で、国民的スポーツ（国技）に関する日米の考え方や取り組み方の違いが明らかになってきた。

まず、国技のとらえかたに違いがみられる。日本の相撲の場合は、日本の歴史や伝統と深く関わっていることがあり、日本固有のスポーツであることから、国技として広く認識されている。ただ、人気は高いものの、いわゆる観戦すること（しかも、実際にみることができるとは一部にすぎず、ほとんどTV観戦）の人気であって、多くの人々が実際に行っているというものではない。

アメリカでは、国技は、最もポピュラーなスポーツであると考え人が多い。具体的には、「よりたくさんの人々が、楽しんでいる」とか「観戦に試合場まで行く人数が、多い」という観点を挙げていた。結果をまとめると、国技としては、「野球」という回答が最も多く、次に「フットボール」「バスケットボール」という回答が続いた。

とらえかたの違いは、主にその国の人々のスポーツへの関わり方が、反映していると思われる。日本では、スポーツは「楽しむ」というよりも「鍛える」というとらえ方が多い。そして、鍛えあげられた選手の競技を観戦して楽しむのである。ところが、アメリカは、スポーツは「自分たちで楽しむもの」という意識が強い。このことは、スポーツ施設の数が、日本より数倍多く存在し、施設の内容も充実していること、中学校・高校の教育施設も同様に充実していること、また、国土の広さや教育システムの違いなども関係していると思われる。さらに、日本では二軍、三軍にあたる2Aの試合における熱心な応援や施設の充実も、日本では考えられないことである。



次に、国技としての共通点は、相撲も野球も、人気のあるスポーツとして第1線の競技者になるまでの過程にあると思われる。相撲も野球も、その厳しさにおいては、他の競技とは比較にならないものがあることが判明した。

今回の現地調査で、国技を教材化することで日米の相互理解を深めることができることを確信し、

教材化のための多くのヒントを得ることができた。

終わりにになりましたが、ハイスティングス氏やシャーパーン氏をはじめ現地でご協力いただいた多くの方々に感謝申し上げます。

現地調査及びワークショップの日程とその主な内容（チーム A）

日時	日程・場所	主な内容	協力者
7月31日 (日曜日)	10:30 Rick Logo氏 (曙の従兄弟)に 会ってのインタビ ュー  	○スペイン氏よりRick Logo氏を紹介される。米国の国技は、野球、日本の国技は、もちろん相撲と答える。相撲のことはよく知っており、興味・関心は、高い。本人は、フットボールの選手。相撲世界の独特のきびしさをよく知っており、相撲取りには、なりたくないと答えた。	• Rick Logo氏 • Donald Spence氏
8月 1日 (月曜日)	9:30 オリエンテーション : ロック・スプリングス 乗馬センター  12:30 (Overton'sでの インタビュー スポーツ店の視察  • 店長へのインタビュー • お客へのインタビュー  	○日程の調整  ○米国の国技は、野球、フットボール、バスケットボールと答えた人が多い。国技に関して、米国では、盛んなスポーツ、好まれているスポーツという考えがある。 最近、ワールドカップが開催されたため、サッカーが次第に盛んになりつつあると説明した。 ほとんどの人が、日本の国技は、相撲であると答えた。TVで見た人が多い。  ○野球用品の売り場の占める割合が以外と少ない。アウトドア用品、釣具、猟銃など日本のスポーツ店にはみられない売り場もあった。	• Greg A. Hastings氏 • Philip Beaman氏
	13:30 スーパーマットで のインタビュー	○米国の国技は、野球、フットボール、バスケットボールの順に答えた。 相撲については、パネルなどを見せ	



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・店長へのインタビュー</li> <li>・お客へのインタビュー</li> </ul>	<p>ることによって、国技であることに気づいた人が多い。TV観戦の人が多く、国技館などで実際にみた人はいない。</p>	
<p>8月 1日 (月曜日)</p>	<p>17:00 野球場でのインタビュー (グレインガー球場での2A観戦)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・球場の施設</li> <li>・観客の様子</li> <li>・売店の様子など</li> </ul>	<p>○球場放送で、私たちを紹介していただき、調査がやりやすかった。 観客のほとんどは、米国の国技は、野球と答えた。ただ、年齢が若くなるにつれ、フットボール、バスケットボール、サッカーが多くなる傾向がみられた。 日本の球場の施設、売店の様子など似ているところが多い。地方の球場ということもあるかもしれないが、応援やショーなど心から楽しんで見ている様子を感じた。</p>	<p>・ Joe Gaddis氏</p>
<p>8月 2日 (火曜日)</p>	<p>10:00 Nash Central Jr. High Schoolにて「SUMO SCHOOL」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相撲の歴史の説明</li> <li>・ルールの説明</li> <li>・決まり手の説明</li> <li>・ビデオによる相撲の紹介</li> <li>・相撲の実演</li> </ul>	<p>○中学生約25名を対象に、相撲スクールを実施。相撲について、初めて知る生徒がほとんどであった。 VTRの相撲の勝負に大変興味を持ち、仕切は何回するのか、手刀の意味は、なぜ、塩をまくのかなどの質問がでた。 ○相撲の実演では、積極的に相撲を行いたいと申し出る生徒が多く、数多くの取り組みを行った。 全般的に、相撲に対する興味を高めることができたし、国技としての相撲を理解させることができた。 ○米国の国技の質問には、野球、バスケット、フットボールの順に数が多い。</p>	<p>・ Bobby G. Spencer氏</p>

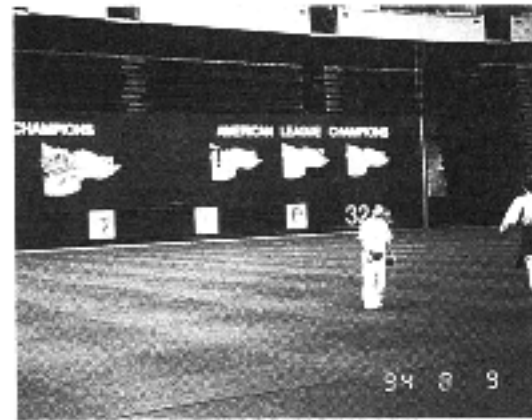


	<p>各自 ホームステイ・ホスト とともに過ごす。 生田 津森 小田原</p>	<p>ホームステイ先でのインタビュー 生田：野球と相撲についての理解が 高いことがわかる。 津森：相撲のビデオをみせ、相撲こ ついで質問を受ける。興味 ・関心が高い。 小田原：野球を子どもと一緒に 野球が国技であることを確 認する。</p>	
<p>8月 3日 (水曜日)</p>	<p>10:00 Southern Nash Jr. High Schoolにて 学校視察</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の施設</li> <li>・スポーツ施設</li> </ul> <p>17:30頃 ハジンス氏宅に 到着,調理。 21:15頃 ルン・シップパーティ を閉会,ハジンス 氏宅を出発。</p>	<p>○スポーツ施設の充実ぶりに驚く。 生徒は、スポーツに熱中して取り組 んでいる。教育課程の中に、スポー ツを重視していることがわかったが もっとほかの面にも経費をかけるべ きだと感じた。 インタビューした教育関係者から も同様に意見が聞かれた。</p> 	<p>・Rick McMahon氏 とSouthern Nash Jr. HighSchool teachers</p>
<p>8月 7日 (日曜日)</p>	<p>9:30 ホテル出発。 10:00ソフトボールの試合 に参加</p> <p>12:00</p>	<p>○シャーバーン氏と日曜日のソフト ボールの練習に参加。試合を楽しむ 。ミネアポリスの回りには、芝生の グラウンドが数多くあり、自由に開放 されていて使用できる。</p> 	<p>・Paul V. Sherburne 氏</p>
<p>8月 8日 (月曜日)</p>	<p>9:00 ミネソタ大学到着 10:00 -オリエンテーショ ン 11:30 13:00 メトロドーム球場 見学ツアーに参加</p>	<p>○日程の調整</p> <p>○メトロドーム球場の諸施設の見学ツア ーに参加。ベンチ,マウンド,外野</p>	<p>・Paul V. Sherburne 氏</p>

・球場内の諸施設の視察

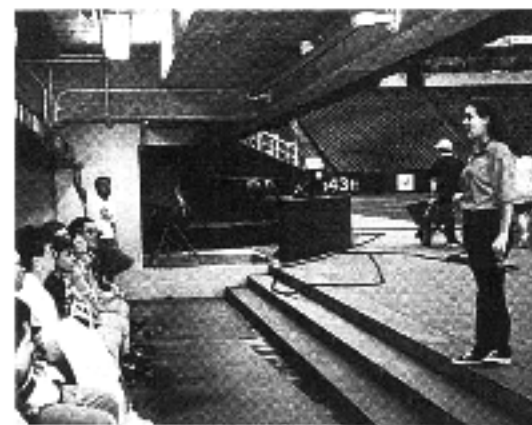
VIPルームなどの施設を見学する。実際に人工芝やフェンスにふれたり、球場での臨場感をたっぷり味わうことができた。

・Paul V. Sherburne 氏



・ガイドさんへのインタビュー

○日本の球場（東京ドーム）と比べて出入口が多い。施設的には、余り違いはみられなかった。ただ、球場見学ツアーは、毎日行われており、全米各地から年間1万5千人の人が見学にくるとの説明を受けた。



・ツインズの事務所を訪問

○高校を出て、メジャーになる選手はほとんどいない。大学でも、最低1年は、マイナーを経験しなければメジャーにあがれない。

その理由には、年間162試合も行うため、体力的にも精神的にもプロとアマには大きな違いあることがわかる。

フットボール、バスケットボールには、マイナーリーグがないために大学を出て、すぐ活躍する選手も少ない。

○これらのことから、日本の相撲と同じようにアメリカの野球もプロとアマの差が大きいことがわかった。相撲と野球にはプロとしての厳しさがある。

17:30 メトロドーム球場に出発

・観客へのインタビュー

○家族連れ、友達同士、ツアーの仲間などにインタビューを行った。

ほとんどの者が野球が国技であると答えた。その理由には、好きであ

・Paul V. Sherburne 氏



るとか、もっとも普及しているから、みんなのできるからということをおげた。

野球観戦には、9割以上が自動車を使う。球場の近くには、多くの駐車場があり、値段には差があるものの、およそ1万5千台程度駐車できるということであった。

8月 9日  
(火曜日)

10:00 コンコルディア  
カレッジにて  
「SUMO SCHOOL」  
(Youth express)

- 相撲の歴史の説明
- ルールの説明
- 決まり手の説明
- ビデオによる相撲の紹介
- 相撲の実演



14:00 スポーツ店の視察  
• 店長へのインタビュー

15:30

○9～14才までの、子ども25名を対象に、相撲スクールを実施する。決まり手の投げ技に興味を持って、ビデオを見ていた子どもが多かった。

○相撲の実演では、積極的に相撲を行いたいと申し出た子どもが多いのに感心をした。試合が、終わっても自分達で相撲の試合を行っていた。特に、女子で行司の役をしたいとか、私たちに相撲で勝負をしたいとか積極的に相撲に関わっていく姿勢がみられた。(写真13, 14)

○米国の国技では、野球、バスケット、フットボール、サッカーの順に答えた。

○店員同士とお客も入って、国技についての討論が始まった。野球と言う者、フットボール、バスケットボールという者、結論はでなかった。

ただ、売り場での帽子の数、野球カードの数、売れる品物の数などでは、野球に関する品物がフットボ-

• Paul V. Sherburne 氏

• Paul V. Sherburne 氏



		ルやバスケットボールよりもかなり多いことは事実である。	
<u>8月10日</u> <u>(水曜日)</u>	9:00 レポートの作成   15:00		

## 家電製品からみた日米の衣食住

広島大学附属三原小学校	朝倉 淳
島根県松江市立城北小学校	鈴木 理生
島根県松江市立第二中学校	高橋 和美

### 1 はじめに

事前研究会で、私たちのチームはアメリカ人の日常生活のいろいろな面について話し合い、本で読んだこと、聞いたことなどお互いが持っている情報を交流した。そして、アメリカ人と日本人のものの見方・考え方や行動様式をどのように比較することができるか、また小学校高学年の児童を対象にしたどのような教材をつくることができるかを話し合った。メンバーのアメリカでのホームステイ（1984年）の経験をもとに、ものの見方・考え方や行動様式は家庭生活にもあらわれていると考え、アメリカ人の家庭生活の様子を調べ教材の素材とすることにした。

私たちは現地での調査にさきだち、二つの柱をたてた。

- ①アメリカ人は日常生活の中でどんな家庭電化製品（家電製品）をどのように使うのか
- ②アメリカの子どもたちは夏休み中はどのように過ごすのか

アメリカで使われている家電製品を知り、それらの家電製品が家庭生活上でどのように使われているのか知ることは、日本の児童が日本とアメリカの家庭生活の類似したところと違うところを正しく理解することにつながる。これは、ただ家電製品を比較するのではなく、比較を通してなぜ異なった種類の家電製品が使われているのか、これらの家電製品はどのような文化をあらわしているのかを調べるものである。また、アメリカの子どもたちの夏休みの過ごし方を通してその文化的背景を調べるものである。

アメリカの家庭生活をより深く理解するために、私たちは幼児、児童、生徒、父母、電気店の店員、教師、大学教授、教育行政関係者などに話を聞くことにした。それらの人々の話から、児童がアメリカの家庭生活について明確なイメージをもつことができるような情報を得ることができると思う。

### 2 目的

ノースカロライナとミネソタにおいて家電製品を通してみる衣食住および小学生の夏休みの過ごし方を調査し、日本のそれと比較する。私たちの目的は、それを素材にして、日米の小学生の家庭生活の様子や背景にあるものの見方・考え方について考えるための、小学校高学年を対象にした教材をつくることである。

### 3 方法

私たちのチームは次のような方法で調査する。

- ① 電気店の店員に話を聞く。
- ② 家族の一人一人に話を聞く。
- ③ 店や家庭にある家電製品を見たり、写真を撮ったりする。
- ④ 店や家庭にある家電製品を使ってみる。
- ⑤ 家電製品の広告やパンフレットを手に入れる。
- ⑥ アメリカと日本の家庭にある家電製品を比較してみる。
- ⑦ アメリカと日本の子どもの夏休みの過ごし方の比較をする。

インタビューにあたっては、家庭を訪問して大人や子どもに聞く質問、電気店で店員に聞く質問を用意し、質問紙をつくって活用する。質問の項目は、家庭での使用の様子（使用する時間 一年または一日のうちいつ使うか、なぜ使うか、誰が使うか、どのように使うか、家庭生活への影響はどうかなど）・日米の家電製品が違う理由などである。

家電製品の観察については、外見（大きさ・形・重さ・色）・付属機能・価格・信頼性・耐久性・使用目的などを調査する。

また私たちは、児童・生徒の夏休み中の遊びと勉強の様子を調べ、家庭生活の様子について調査する。

### 4 現地調査の概要

#### (1) 全体会・打ち合せ等

##### ① ロックスプリングス

＜教育長の挨拶 広島プロジェクトの紹介 ノースカロライナのメンバー・パートナーの紹介  
子ども博物館からのスピーチ 市長の挨拶 副学長の挨拶 現地調査の打ち合せ＞

##### ② ストリックデイルレストラン

＜日米の教育についての懇談＞

##### ③ ミネソタ大学教室

＜日本の家庭生活と教育についてのスピーチ 現地調査の打ち合せ＞

エンロー博士から日本の家のつくり、生活様式、教育の比較について話を聞き、話し合った。日本の学校教育について高い評価をされていたが、それぞれの国でいくらかの問題があることがわかった。その後ミネソタでの3日間の現地調査の日程を検討した。

#### (2) 家電製品販売店およびスーパーマーケットでの調査

##### ① コーリーホームセンター

＜家電製品の観察・写真撮影 店員へのインタビュー＞

家電製品は日本に比べて大きく重く丈夫にできており、およそ1/2から2/3の価格であっ

た。生活様式や考え方が家電製品やその購入の仕方にあらわれていることが分かった。

#### ②シアーズの電気店

＜家電製品の観察・写真撮影 電気店の店員へのインタビュー＞

アメリカ人は家電製品を選ぶときに価格を最優先すること、日本製品についてはAV機器は人気があるが衣食住に関わる製品は人気がないこと、コンピューター制御の日本製品はアメリカの人は好まないということが分かった。

#### ③モンゴメリーワード店

＜家電製品の観察・写真撮影 店員へのインタビュー＞

日本製の家電製品がないのは輸送の問題があるからだろうということであった。アメリカ人は家電製品を選ぶのに耐久性、価格の面から決めるということであった。冷蔵庫が大きいのは肉中心の食生活で土日にまとめ買いをして保存しておくのに必要だからであるということが分かった。

#### ④バヤリーススーパーマーケット

＜店内の商品販売の様子と購買の様子の観察＞

バヤリーススーパーマーケットを見学しどのように何のために人々が買物をしているか観察した。とくに食にかかわってお惣菜や手早く用意できる食品について調査することができた。

### (3) 家庭を訪問しての調査

#### ①ピール氏宅

＜家庭で使われている家電製品の観察・写真撮影 インタビュー＞

インタビューでは、その家電製品をいつ、だれが、どのくらい、どのように使用するかを尋ねた。また、私たちが実際に使用してみてその感触を確かめた。二人の子どもたちとも話をしたり遊んだりして家庭での日常生活の様子をくわしく知ることができた。

#### ②ホームステイ宅

＜家庭で使われている家電製品の観察・写真撮影 インタビュー＞

私たちはそれぞれホームステイ先で日本文化を紹介したり、アメリカの家庭の様子を見学したり衣食住に関する家電製品の利用についてインタビューしたりした。

#### ③コルグレン氏宅

＜家庭で使われている家電製品の観察・写真撮影 インタビュー＞

コルグレン氏宅を訪問して家庭で使われている家電製品やその使い方などについて観察、写真撮影、家族（夫妻、二人の子ども、ホームステイ中のフランスの子ども）へのインタビューをした。家電製品の使い方や家事の分担はそれぞれの家庭の事情（仕事や家族構成）に応じていることが分かった。

#### ④エリクソン氏宅

＜家庭で使われている家電製品の観察・写真撮影 インタビュー＞

エリクソン夫人に、いつどのように家電製品を使うかについてインタビューした。これまでのインタビューで分かったことを再確認できた。また、子どもが独立して夫婦だけの家庭でも子どもがいる家庭と同じように家電製品を使っていることが分かった。そして、



家電製品の使われ方は家族構成を反映しているということが分かった。

#### (4) 学校ならびに諸施設を訪問しての調査

##### ①ストックス小学校

<校内見学 写真撮影>

##### ②スノーヒル小学校

<懇談 校内見学 写真撮影>

ピール氏、本校の教員とノースカロライナの教育事情について、話し合った。また、サマースクールの実施中だったのでその授業風景を観察、写真撮影をした。コンピューター学習室での学習風景も参観、写真撮影した。

授業は8時30分から3時までで授業後は全員スクールバスで下校する。放課後は宿題をしたり遊んだり自分の趣味の習いごとをしていることが分かった。学級定員は27名なので、日本に比べてスペースにゆとりがあった。コンピューター室では1人に1台のコンピューターが与えられ、子どもたちは自分の好きなソフトを使い、主に言葉の学習をしていた。学校は全館冷暖房完備である。

##### ③ウエストグリーンスクール

<サマーキャンプの見学・写真撮影 インタビュー>

6月11日から8月24日までの夏休みの間この建物の一角を利用してサマーキャンプが行われていた。ただしここに泊まるわけではなく子どもたちが朝ここにやってきて友人たちと遊んだりスポーツをしたりして夕方には家に帰る。指導者は7人ですべてボランティアで行われていた。

##### ④グリーンカウンティ合同庁舎

<デモンストレーションの見学>

ホームエコノミストの話聞いて、家族の健康を考えた料理実演を見て、その料理を試食した。

##### ⑤セントルイス中学校

<校内見学・写真撮影>

エリクソン氏の案内で校内を見学し写真をとったり説明をうけたりした。中学校では日本と大きな違いはなかったが、メディアセンター（図書館と視聴覚教室、パソコン教室が一体となった部屋）やパソコン教室、体育館などの施設、設備が充実していた。

##### ⑥デイケアセンター

<園内見学 懇談>

3～6歳児を保育している。保母と懇談をしたり、幼児たちと交歓をした。

##### ⑦グローバルスタディズリソースセンター

<所内見学 資料収集>

国際理解教育のための本や教材などがあるグローバルスタディズリソースセンターを訪問した。エリクソン氏に教師や児童・生徒が使う教材のカatalogや見本、パンフレットなどをもらい、説明を受けた。アメリカの学校の国際理解教育ではどのような資料を使ってどんなことが教えられているかが分かった。

## 5 ま と め — 現地調査の意味 —

子どもたちにとって大事なことは、他の国と生活様式を比較してみたときに相違点だけでなく類似点もあるということを理解することである。そのことを理解することによって、子どもたちは国際社会に生きていることを知り、世界中に共通したことがあること、自分も国際社会の一員であることを実感することができる。また、自分たちの文化の独自性についてもそれを再発見し評価することができる。

アメリカの人々へのインタビューや家電製品の観察、アメリカの家庭での調査などの現地調査によって私たちは児童の教材となるたくさんの素材を得ることができた。日米の子どもたちの国際理解のための教材づくりに大変有意義な現地調査になったと感じている。さまざまなお支援ご援助をくださった日米の多くの関係者に心から感謝します。

### 現地調査およびワークショップの日程とその主な内容 (チームB)

日 時	場 所	内 容	主な協力者
8/1 10:00	ロックスプリングス	教育長・市長・副学長の挨拶 プロジェクトのメンバーの紹介 子ども博物館からのスピーチ 懇談・打ち合せ	ピール氏
14:00 15:00	ストックス小学校 コーリーホームセンター	校内見学 写真撮影 家電製品の観察と写真撮影 店員へのインタビュー	ピール氏
16:00	ピール氏宅	家電製品の観察と写真撮影 家族へのインタビュー	ピール氏
8/2 9:30	スノーヒル小学校	懇談 校内見学 写真撮影	ピール氏 スレイン氏 エドモンドソン氏
12:00	ストリッケイルレストラン	懇談	ピール氏 スレイン氏 エドモンドソン氏 テイラー氏 モーガン氏

14:00	ウエストグリーンスクール	サマーキャンプ見学 写真撮影 子どもへのインタビュー	ピール氏
15:30	グリーンカウンティ銅器	ホームエコミストのデモンストレーション見学	ロースウェル氏
16:00	エドワード氏宅 ホートン氏宅 アダムス氏宅	ホームステイ 家電製品の観察と写真撮影 家族へのインタビュー	エドワード氏 ホートン氏 アダムス氏
8 / 3			
11:00	シアーズの電気店	家電製品の観察と写真撮影 店員へのインタビュー	パーソンズ氏
14:00	ヒルトンホテル	ピール氏とまとめの作成	ピール氏
8 / 8			
9:00	ミネソタ大学	日本の家庭生活と教育についてのスピーチと現地調査の打ち合せ	エリクソン氏
13:00	セントルイス中学校	校内見学 写真撮影	エリクソン氏
15:30	コルグレン氏宅	家電製品の観察と写真撮影 家族へのインタビュー	コルグレン氏
8 / 9			
9:30	デイケアセンター	園内見学 懇談	ジョンソン氏
10:30	モンゴリーワード店	家電製品の観察と写真撮影 店員へのインタビュー	エリクソン氏
14:00	ラックスホードスイートホテル	報告書作成	
8 / 10			
9:30	バヤリススーパーマーケット	店内の商品販売の様子と購買の様子の観察	エリクソン氏
10:30	グローバルデザインリソースセンター	所内見学 資料収集	エリクソン氏
11:30	エリクソン氏宅	家電製品の観察と写真撮影 家族へのインタビュー	エリクソン氏